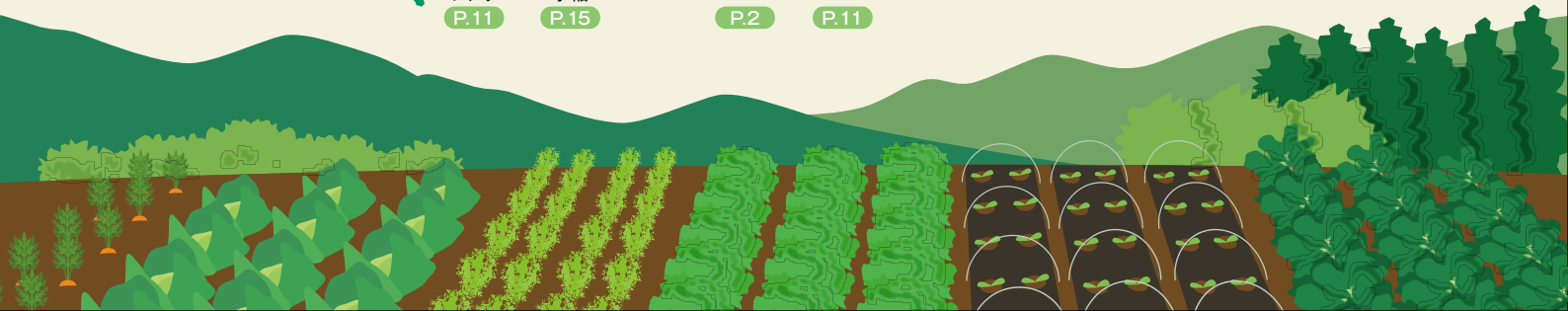


紹介する新規就農者の地域と品目





瀬戸内市牛窓
露地野菜(はくさい、キャベツ、とうがん)
みやもと かつみ
宮本 克己さん(43歳)

出身地 岡山県
経営規模 はくさい50a、キャベツ80a、とうがん30a
(就農時) はくさい15a、キャベツ40a、とうがん20a
研修 平成22~23年(農業実務研修)

就農年 平成24年
農地 借地115a
労働力 本人、配偶者

就農動機

- 地元企業に勤めていましたが、地域の農家の高齢化が問題となっており、少しでも生まれ育った地域に貢献したいと思い就農を決意した。
- 農家ではなかったため、県の新規就農研修事業に申し込み、受入指導農家のもとで2年間の研修を受けて経営を開始した。

アドバイス

- 安心して販売できる、JA出荷されている地域の特産物でブランド力のある品目で経営計画を検討しましょう。
- 露地栽培では、気象災害や病害虫の発生で目標の生産量を確保できないこともあるので、自己資金は十分準備しましょう。
- 生産技術向上のため、研修先の農家や地域の方、農協のアドバイスを受けましょう。
- 規模拡大のための農地の確保には、地域の方からの信頼を得ることが必要不可欠です。



和気町
なす、白ネギ、水稻 他
もり しゅんすけ
森 俊輔さん(31歳)

出身地 岡山県和気郡和気町
経営規模 なす20a、白ネギ100a、水稻200a、タマネギ10a、スナップエンドウ8a
(就農時) なす10a、白ネギ50a、水稻80a
研修 平成24年~27年
※農業法人に勤務し、なす、白ネギ管理全般を担当

就農年 平成28年
農地 借地338a
労働力 本人、配偶者、パート7人

就農動機

- もともと農業に興味があり、みつおか農園が法人化する際の立ち上げメンバーとして参画した。
- 法人の構成メンバーとして農業に従事することもできたが、なすと白ネギについて十分に技術を習得し、独立した。

アドバイス

- 経営品目を途中で転換することはとても難しい。就農前にとことん悩んだり、体験したりして品目を決めて。
- 農業経営上のやりがいと、実際の所得は違う。家族を養うためには、所得確保を追求することも必要です。
- 買い手との接触を優先し、自分にあった取引先を見つける努力を続けること。手取りの単価で倍の差がつくこともある。栽培技術が100必要だとすると、販売努力は200必要。



久米南町
きゅうり、だいこん、はくさい、人参
かめ の あきひろ
亀野 晃弘さん(46歳)

出身地 大阪府
経営規模 きゅうり12a、だいこん60a、はくさい30a、人参20a
(就農時) きゅうり20a、はくさい5a
研修 平成25年~26年(農業実務研修)

就農年 平成26年
農地 借地122a
労働力 本人、配偶者

就農動機

- 中学時代から農業をすることを夢見ていた。社会人となり農業とは関係のない他産業に従事していたが、夢をあきらめきれず転職を決意。
- 大阪での就農フェアに通って情報収集。
- 当初はだいこん、はくさいの栽培を希望していたが、久米南町のきゅうりを紹介され、きゅうりを経営の中心にすることに変更。
- 月1回以上のペースで大阪から久米南町へ通って野菜作りを体験するなど地域での信頼関係を構築し、久米南町での就農を決意。
- 平成25年に移住し、研修を開始。

アドバイス

- 時間があるのなら、研修前から受け入れ先に通い、地域の人達に顔を覚えてもらうようにすること。
- 自己資金はあるに越したことはない。
- 積極的に地域の行事に参加すること。



高梁市備中町 夏秋トマト
よ でん しん の すけ
余田 信之助さん(34歳)
す み こ
寿美子さん(39歳)

出身地 京都府
経営規模 14.5a
(就農時) 12a
研 修 平成28年～29年(農業実務研修)

就農年 平成29年
農 地 借地30a
労働力 本人、配偶者

就農動機

- 東日本大震災をきっかけに移住した。もともと農業に興味があったので、近所の方から受入農家の方を紹介してもらい、研修を受けることとなった。
- 体験研修を含め約1年半の研修で、栽培技術はもちろん、地域のことなどを色々と学んだ。受入農家の方の手厚い支援を受け、経営を開始することができた。
- 今後は、規模拡大とともに省力化に努め、色々なことにチャレンジして安定した経営を目指していきたい。

アドバイス

- 周囲の農家とのつきあいは非常に大事。一生懸命頑張れば先輩農家や地域の方々から親身にサポートしていただけるので、アドバイスをよく聞き、根気よく続けることが必要だと思う。



真庭市蒜山 夏秋トマト、白ネギ
は や し り ょ う す け
林 亮佑さん(30歳)
ま き こ
麻紀子さん(28歳)

出身地 大阪府
経営規模 トマト18a、白ネギ5a
(就農時) トマト18a
研 修 夫:真庭市内の農業法人で平成26年～28年まで勤務し、レタス、ミニトマト、ピオーネなどの栽培管理
妻:岡山県農業大学校野菜専攻(平成20～23年)

就農年 平成28年
農 地 借地69a
労働力 本人、配偶者、パート2人(年間100日程度)

就農動機

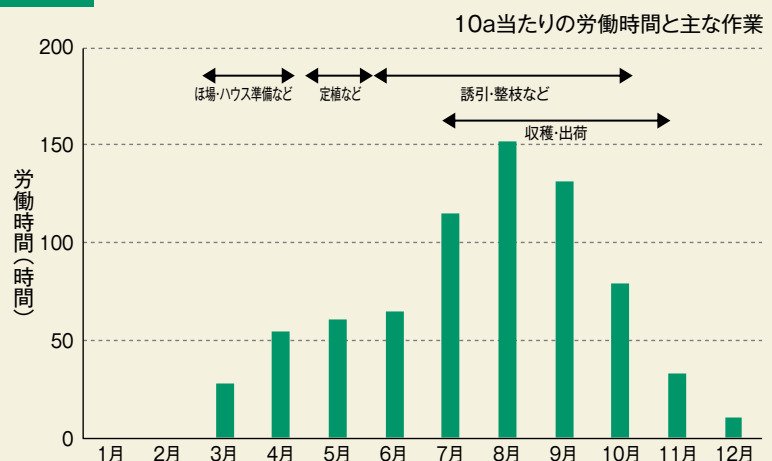
- 亮佑氏は大学時代に完全手作業の米作りをする機会があり、「こんなおいしいご飯ができるのか」と感動し農業に目覚めた。
- ともに真庭市で別々の農業法人で働いており、先輩の紹介で知り合った。結婚後に2人で独立して就農することを決意した。
- 子どもの頃から「田舎」や「自然」に対するあこがれが強かったこと、それぞれが真庭市蒜山で別の農業法人に勤め、地域とのつながりや人脈があったことから自然に蒜山地域で就農する形になった。
- 就農を決意した頃、出雲で食べたトマトゼリーの美味しさと現地見学したトマト栽培の好印象がきっかけで、夫婦でトマトでの就農に向けて活動を開始した。

アドバイス

- 当初の資金計画がちょっとしたことで崩れていくので、余裕を持った資金の準備が必要です。
- 農業は自分の身体が資本なので、健康管理に十分な注意が必要です。
- 夫婦で就農される場合、農業以外の家事、子育て、地域活動等を共同でこなせるよう役割分担をした方がよい。
- 困ったときに手伝いをお願いできる人がいると、滞りなく農作業を進めることができる。孤独農業を避けた方が無難だと思う。

トマト(雨よけ・養液土耕)のポイント

- 標高の高い地域で、冷涼な気候を活かした夏秋トマトの栽培が盛ん。
- 新規就農研修制度でこれまで31人が就農。
- 労働ピークは7月から9月で、収穫と枝管理作業がある。
- パイプハウス、養液土耕装置などの初期投資が必要。



※労働時間は平成27年度農業経営指導指標より作成



赤磐市是里
ブドウ
たむら としひろ
田村 敏浩さん(45歳)

出身地 大分県
経営規模 ブドウ70a、水稲20a、野菜10a
(就農時) ブドウ40a、水稲20a、野菜10a
研 修 平成24年~25年(農業実務研修)

就農年 平成25年
農 地 借地100a
労働力 本人、配偶者(繁忙期のみ)

就農動機

- 姫路市で土木関係の仕事をしていましたが、以前から農業に憧れがあった。
- 「始めるなら早いほうがいい」と40歳で就農した。
- 自ら望んで始めた農業なので、就農してからは毎日楽しい。

アドバイス

- 本人だけでなく配偶者など、家族で現地を何度も訪問して就農地を決めてほしい。
- 生活環境(スーパーや学校など)も重要で、その土地の全ての環境を含めた雰囲気を感じてほしい。
- その土地で頑張っていれば、協力してくれる人は必ずいる。農業はもちろん、地域の集まりや祭事にも積極的に顔を出して。



倉敷市船穂
ブドウ(マスカット)
まつい かずのり
松井 一智さん(38歳)

出身地 岡山県倉敷市
経営規模 ブドウ100a(マスカット・オブ・アレキサンドリア62a、シャインマスカット9a、ワイン用品種17aなど)
(就農時) ブドウ40a(マスカット・オブ・アレキサンドリア31a、瀬戸ジャイアンツ9a)
研 修 平成22年~24年(農業実務研修)

就農年 平成24年
農 地 借地100a
労働力 本人、配偶者、両親、弟、パート2名

就農動機

- 大阪でフランス料理のシェフとして勤めていた時、フランスに料理の勉強に行き、ワイン農家で研修をさせてもらった。その時、屋外で働く農業に魅力を感じ、就農を考えるようになった。
- 農業の中でも、将来的にはワイン作りをしたいと思い、品目をブドウに決めた。
- 就農相談会や就農オリエンテーションに参加し、情報収集する中で、有核のブドウ(マスカット・オブ・アレキサンドリア)を栽培している倉敷市船穂町の産地に魅力を感じ、当地での就農を希望するようになった。
- 研修中は、受入農家のもとで一緒に作業し、技術を習得しながら、地域の農業後継者クラブ活動にも参加し、若手農家と交流しながら地域に溶け込んでいった。

アドバイス

- 自分で思い描いた農業をするためには、まず、受入産地の中で頑張り、その後、自分のやりたい農業をしてほしい。



矢掛町
ブドウ
なかしま のぶ ゆき
中嶋 宣幸さん(41歳)

出身地 岡山県岡山市
経営規模 ブドウ40a(シャインマスカット17a、オーロラブラック12a、ピオーネなど)
(就農時) ブドウ28a
研 修 平成26年~28年(農業実務研修)

就農年 平成28年
農 地 借地40a
労働力 本人、配偶者

就農動機

- 結婚を機に以前から憧れていた田舎暮らしを検討。妻が就農研修制度を勧め、やるなら自分の好きなブドウを作りたいと思い、生涯現役で働くことのできる農業を職業とすることに決めました。
- 就農オリエンテーションで候補地を実際に確認し、交通や生活面で利便性が良く、妻の通勤も可能な矢掛町を選びました。
- 研修当初はブドウと梨の複合経営を目標としていましたが、実務研修で一連の作業を体験し、ブドウ専作に絞り込みました。

アドバイス

- ブドウは定植後3年程度は収入が得られません。また、想定外のトラブルが発生する場合があります。就農後5年を目安に黒字経営になるよう、経営規模や内容を検討して綿密な収支計画を立て、就農の判断をしてください。
- 研修中に生産部会や地域の方と積極的に交流し、繋がりを作りましょう。
- 就農当初は、悩んだり、迷ったりの繰り返しです。家族の理解と協力は欠かせません。



高梁市宇治町
ブドウ
いとう あきら
伊藤 明さん(40歳)

出身地 神奈川県
経営規模 ブドウ50a
(就農時) ブドウ50a
研 修 平成23年~25年(農業実務研修)

就農年 平成25年
農 地 借地50a
労働力 本人、パート(短期)

就農動機

- 飲食関係の仕事に就いていたが、自分で時間の管理ができ、収入として自分に結果が帰ってくる農業に魅力を感じるようになった。
- 全国各地のいろいろな品目を検討し、ブドウにモノを作り上げる楽しさを見だし、ブランド力のある岡山県での就農を決意した。
- ブドウ農家での体験や就農相談を経て、農業実務研修を約2年間行った。研修では受入農家のもと技術をしっかりと学び、地域やJA、市の支援により新たな農地を整備してもらって経営を開始できた。

アドバイス

- やると決めたらとにかくやってみる。なんとなかなる。
- 生産販売体制がしっかりした産地を選ぶこと。
- 就農までに予想以上にお金や時間がかかる。事前にしっかりと準備しておくことが大切。
- 地域の信頼を得られることが重要。自分勝手や周りに迷惑をかけるようなことはしないこと。



新見市草間
ブドウ
ふる かわ だいすけ
古川 大輔さん(42歳)

出身地 兵庫県
経営規模 ブドウ82a(ピオーネ54a、シャインマスカット23a、瀬戸ジャイアンツ5a)
(就農時) ブドウ35a(ピオーネ)
研 修 平成23年~25年(農業実務研修)

就農年 平成25年
農 地 借地82a
労働力 本人、配偶者

就農動機

- 以前から食品生産に興味があり、いつか生産稼業に携わりたいと考えていた。妻の出身地が岡山県ということもあり、岡山の果物にふれる機会にも恵まれ、岡山産ブドウの質の高さに感動し、中でも新見市のブドウが一番質が良いと感じ、当地での就農を決めた。
- 研修時に、産地全体の協力体制が非常に大切であることを強く感じた。また、ご夫婦で経営されている受入農家のもとで研修したことがきっかけで、自分たちの目標とするモデルとなり、平成28年には家族経営協定を締結し、夫婦二人で農業経営に取り組んでいる。

アドバイス

- 当初の計画以外にも生活費以外に多くの出費があるので、自己資金は十分準備して就農する必要がある。果樹の場合は育成期間、収入がないので特に就農初期は苦労する。
- 自身の目標達成だけでなく、産地、地域を盛り上げていく気持ちで地域や生産部会の行事には積極的に参加し、新規就農者同士の交流、情報交換も定期的に行うことが大切です。
- 努力していれば必ず目標は叶う!!



久米南町
ブドウ
いしざわ よしお
石澤 好生さん(42歳)

出身地 北海道
経営規模 ブドウ123a、いちご6a
(就農時) ブドウ34a
研 修 平成25年~26年(農業実務研修)

就農年 平成26年
農 地 借地133a
労働力 本人、配偶者、雇用(通年)3人

就農動機

- 30歳を過ぎ、このまま大阪で会社員を続けるか、新しいことを始めるか迷っていた。
- 農業に興味を抱き、就農の道を探り始め、新規就農フェア等に参加。
- 最初は野菜の有機栽培を考えていたが、全国の農家を回って話を聞き、就農相談会等に参加するうちにブドウに夢を感じるようになり栽培しようと決めた。
- 岡山県の産地見学会で久米南町を紹介され、久米南町での就農を決意した。
- 研修中は、受入指導農家のもとで作業をして技術を習得しながら、荒廃園地の再生作業や、竹林の開墾作業を行って経営開始に備えた。

アドバイス

- 同じブドウでも地域によって経営スタイルがかなり違います。経営規模や販売ルートなど自分の経営イメージを明確にしておくこと農地地域は絞り込み易くなると思います。



真庭市北房
ブドウ
かたぬま けいすけ
片沼 慶介さん(30歳)

出身地 岡山県真庭
経営規模 ブドウ50a(ピオーネ40a、シャインマスカット10a)
(就農時) ブドウ50a
研修 平成25年~26年(農業大学校社会人就業研修)

就農年 平成26年
農地 借地50a
労働力 本人、祖父母、妻

就農動機

- 帯広畜産大学を卒業後、岡山県の農業職の臨時職員として農業普及指導センターなどで働いていた。ブドウを栽培していた祖父が「もうブドウをやめようか」と言うのを聞いて自分が後を継ぎたいと決意し妻を説得、就農した。
- 平成25年の4月から1年間、県の農業大学校で果樹コースの研修を受け、桃とブドウ栽培に関する専門知識や農作業の実技を学んだ。
- 妻と岡山市から真庭市に引っ越し、農業大学校で学びながら祖父とともに農作業を始めた。長年の経験に基づいた祖父の貴重な助言を聞きながら、新しい技術にも取り組んでいる。
- 就農にあたって、ブドウ棚を修繕する必要があったが、市や県の担当者が速やかに対応してくれたおかげで平成25年冬には工事に取っかかることができた。苗木はJAのセンター長が手配してくれるなど、周囲の関係機関が温かく協力的で助かった。

アドバイス

- 一度就農するとほ場は変えられないので、就農地選びはとても大切なステップです。祖父の果樹園であったというのは大きな理由だが、真庭市北房地区は標高が高く、農業用水と日当たりの良さに恵まれ、最高級のピオーネができる産地だったのも理由のひとつです。
- やる気があればできるので、まずは一歩踏み出して取り組んでほしい。



勝央町
ブドウ
たかやま まさひろ
高山 真宏さん(38歳)

出身地 千葉県
経営規模 ブドウ42a(瀬戸ジャイアンツ25a、ピオーネ11aなど)
(就農時) ブドウ24a(ピオーネ15a、瀬戸ジャイアンツ3aなど)

研修 平成23年
(地域の生産者の下で自主研修)
就農年 平成24年
農地 自己所有地22a、借地20a
労働力 本人、パート3名(5月~10月)

就農動機

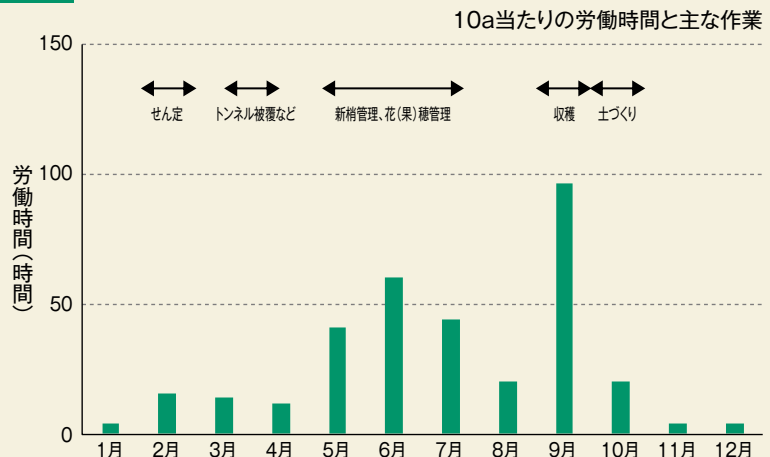
- 会社勤めの仕事一辺倒の生活から家族と共に時間を過ごすライフスタイルを築きたいと思う価値観の変化。
- 地域と家庭と仕事の全てを充実させることができる農家に興味を持つ。
- 生産から販売まで一貫して責任を持てる農業でビジネスとして挑戦。
- 現在は、中国山地の麓で豊かな自然に囲まれ、大地の恵みを存分に受けて、人もブドウの樹も健康に、幸せの賜物がブドウの果実だと信じて日々栽培しています。

アドバイス

- 家族や地域の理解が大切です。
- 成園になり売上が上がるまでの生活費の確保が必要です。

ピオーネ(簡易被覆栽培)のポイント

- 県下全域で栽培されており、岡山県のブドウを代表する品種。
- 新規就業研修制度でこれまで127人がブドウで就農。
- 労働ピークは花(果)穂管理が集中する6月と収穫時期の9月。
- 果樹棚、簡易被覆施設などの初期投資が必要。
- 他品種との組み合わせやハウス加温栽培との組み合わせで労力分散を図る。





岡山市北区
桃
くわはら かずひこ
桑原 一彦さん(39歳)

出身地 岡山県 **研修** 平成25年~26年(農業実務研修) **労働力** 本人、配偶者、父親
経営規模 桃150a **就農年** 平成27年
(就農時) 桃50a **農地** 自己所有地50a、借地100a

就農動機

- 電機メーカーで携帯電話の商品企画などを経験したが、もっと業務の全体に関わるような仕事がしたいという思いが強くなったこと、また子供が生まれたことを契機に自分が仕事をしている姿を子供に見せられるような仕事がしたいと考えるようになったことから就農を考えるようになった。
- 就農相談会、就農オリエンテーションに家族帯同で積極的に参加したり、インターネットなどで情報収集した。当初は桃とブドウの両方を検討していたが、就農オリエンテーションで現在の就農地を訪問した際に見た桃畑の風景に夫婦とも惚れこんだ。また、すでに研修を終えて独立した先輩農家さんから後日いろいろ話を聞いて具体的な就農イメージを描けたことが大きかった。
- 研修中は受入指導農家と一緒に作業する日々でした。受入指導農家は県下有数の大規模農家であり作業は大変だったが、そのぶん学んだこと、身についたことがたくさんあり現在の経営にとても役立っている。

アドバイス

- 就農地、作目のミスマッチを無くすにはリアルな情報をたくさん集めること。そのためには、公的なイベントだけでなく、それをきっかけにどんどん自分からアポを取って気になる場所・人に会いに行くというくらいの積極性が大事だと思う。先輩農家さんに後日お会いして話を聞かせていただいたことが具体的なイメージを持つのにとても役立ちました。
- 研修期間の2年は思った以上にあっという間でした。その2年間の密度を高めることをしっかり意識してもらいたいです(自戒もこめて...)。積極的にやってみること、ちょっとしたことまで記録を取ること、もっとうまくやるにはどうすればいいか考えておくこと等。
- 研修期間、前向きに仕事をしていれば誰かがそれを見ていてくれるもので、それが農地の取得や借地につながったりします。



総社市
桃
ながくら たかひろ
永倉 隆大さん(26歳)

出身地 福島県 **就農年** 平成26年
経営規模 桃76a(白鳳10a、清水白桃10a、恵白10a、その他9品種) **農地** 借地76a
(就農時) 桃76a **労働力** 本人
研修 平成24年~26年(農業実務研修)

就農動機

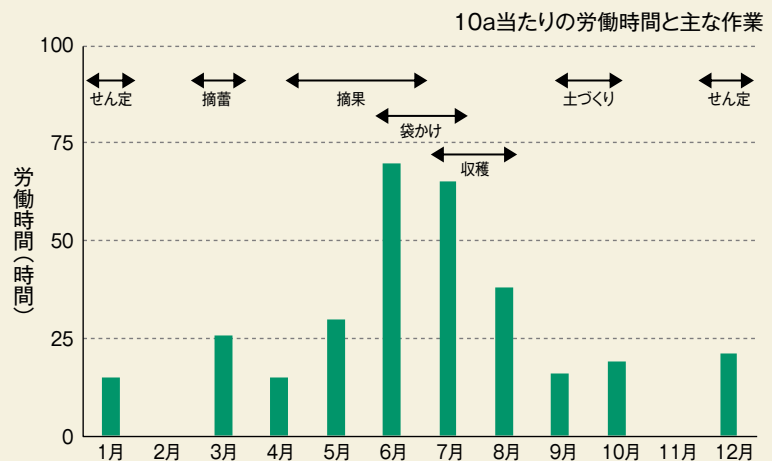
- 福島県福島市の桃農家出身。優れた技術を持つ岡山県の桃栽培を勉強するため、岡山県農業大学校に入学した。
- 当初、農大卒業後は、福島県に帰り実家の桃農家を継ぐ予定であったが、岡山県の桃栽培をもっと深く勉強したいという思いが強くなった。
- そんなとき、岡山県の新規就農研修制度を知り、研修を受けることを決意した。
- 数ある桃産地の中でも、超弱剪定と徹底した摘蕾を基本とする「岡山自然流」という栽培法に魅力を感じ、その栽培法を実践している総社もも生産組合で2年間の研修を経て就農した。

アドバイス

- 家や農地の紹介、農業実務の相談など、人とのつながりが大切です。一日も早く、地域に溶け込めるよう、色々な行事に積極的に参加してください。

清水白桃のポイント

- 主に県南部で栽培されており、岡山県の桃を代表する品種。
- 新規就農研修制度でこれまで18人が桃で就農。
- 労働ピークは摘果、袋かけ、収穫作業が集中する6、7月。
- 初期投資は比較的少ないが、防蛾灯、防風ネットなどが必要。
- 収穫期の異なる品種を組み合わせ、労力分散を図る。



※労働時間は平成27年度農業経営指導指標より作成



水掛町
 水稲・水稲基幹作業受託
 くぼき よしき
久保木 義貴さん(25歳)

出身地	岡山県井原市	就農年	平成28年
経営規模	水稲1,226a(うち特定作業受託723a)、キャベツ40a	農地	借地543a
(就農時)	水稲800a(うち特定作業受託771a)、キャベツ10a	労働力	本人
研修	なし		

就農動機

- 非農家出身であり、農業大学校を卒業後すぐに就農するには、資金・農地確保等の課題があったため、水掛町で水稲を大規模に経営している農業法人へ就職した。
- 農業法人で3年間、水稲栽培技術を習得した後、社長の「本気で水稲で食べていく気があるなら手助けする」との話もあり、平成28年4月にのれん分けの形で独立就農した。就農に際しては、法人から機械・農地の幹旋や米の販売先確保等の支援を受けた。

アドバイス

- 独立するにはどこかで踏ん切りが必要だと思います。ある程度納得のいく就農計画ができれば、とりあえずやってみる、思い切って実践することです。
- 肥料、農薬等の資材は、少量の無駄が発生すれば大規模経営では大きな経費増になります。細かい観察、気配りのできる経営感覚が必要です。
- 水田を預かった人だけでなく、地域住民とのつきあいを大切に地域に溶け込むことが重要です。



美作市
 水稲、麦、大豆
 はまだ ひであき
濱田 英昭さん(34歳)

出身地	岡山県美作市	就農年	平成23年
経営規模	水稲11ha、新規需要米9ha、二条裸麦1ha、白大豆1ha、作業受託5ha	農地	借地23ha
(就農時)	水稲5ha	労働力	本人、雇用2人
研修	なし		

就農動機

- サラリーマン時代から、祖父が行っていた4ha程度の水稲栽培を手伝っており、農業への関心は高かった。
- しかしながら、両親は非農家であり、新規参入という形で就農した。
- 就農後は、農地の保全を第一に考え、地域の方々と交流を深めて短期間で規模拡大を図ることができた。

アドバイス

- 水稲での新規就農者は少ない現状だが、高齢化により耕作できなくなる人は増える一方。
- 早く地域に溶け込み、地域とのつながりを大事にしながら、共に頑張りましょう。

今後の抱負

- 地元の畜産農家と連携して牛糞堆肥を施用するなど、化学肥料の低減を図り、エコファーマーとして食の安全・安心をPRしながら直売を増やしていきたい。
- 最近では、ドローンを導入して水稲や麦の防除受託を行うなど、作業の省力化を進めており、今後も楽しく農業を続けていくのがモットーである。



新見市哲多町
 りんどう
 おくやま りょう
奥山 亮さん(41歳)

出身地	岡山県岡山市	就農年	平成20年
経営規模	りんどう70a	農地	借地70a
(就農時)	りんどう24a	労働力	本人、雇用1人(繁忙期3~11月)
研修	なし		

就農動機

- 県外で就職していたが、岡山に帰って農業をしようと決め、妻の出身地である新見市や阿新農協に相談した。
- 新見市の推進品目であるブドウ、トマト、りんどうでの就農について話を聞き、自己資金最優先で取り組める品目「りんどう」でやっという決めた。
- 生産部会が作成している「栽培マニュアル」を基本に、栽培講習会への参加や先輩のほ場を見学させてもらい、話を聞きながら栽培技術を身につけた。部会の先輩がたびたび、ほ場を見に来てくれて、声をかけてくれたことがとても励みになった。

アドバイス

- 経営が安定する3年目までは生活が大変なので、農閑期にアルバイトをして食いつないでいくくらいの意気込みが必要。
- 生産部会や地域の人たちとの交流が大事。自分からコミュニティーに参加すること。
- 手取り足取り世話をするので飛び込んでこい!3年後には一人前にする!!